

# 和木町人口ビジョン 改訂版

令和8年(2026)3月

和木町



# 目次

第1章 人口の現状分析 .....	1
1 人口動向分析 .....	1
(1)人口等の推移 .....	1
(2)自然動態の推移 .....	4
(3)社会動態の推移 .....	4
(4)産業の状況 .....	8
第2章 将来人口推計と分析 .....	10
1 将来人口推計 .....	10
(1)社人研推計の比較 .....	10
(2)和木町の将来人口の推計と分析 .....	12
第3章 人口の将来展望 .....	13
1 現状分析からの把握 .....	13
(1)これまでの人口の推移 .....	13
(2)人口変化の要因 .....	13
(3)産業と雇用等の状況 .....	13
(4)将来人口推計(社人研) .....	13
2 めざすべき将来の方向 .....	14
(1)人口目標達成のためのめざすべき将来像 .....	14
3 人口の将来展望 .....	15
(1)本町の人口の将来展望 .....	15

# 第1章 人口の現状分析

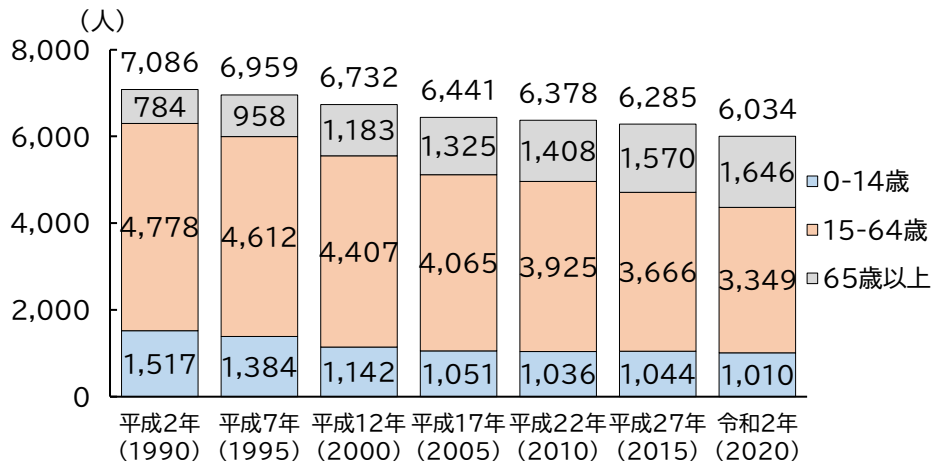
## 1 人口動向分析

### (1)人口等の推移

#### ① 総人口の推移

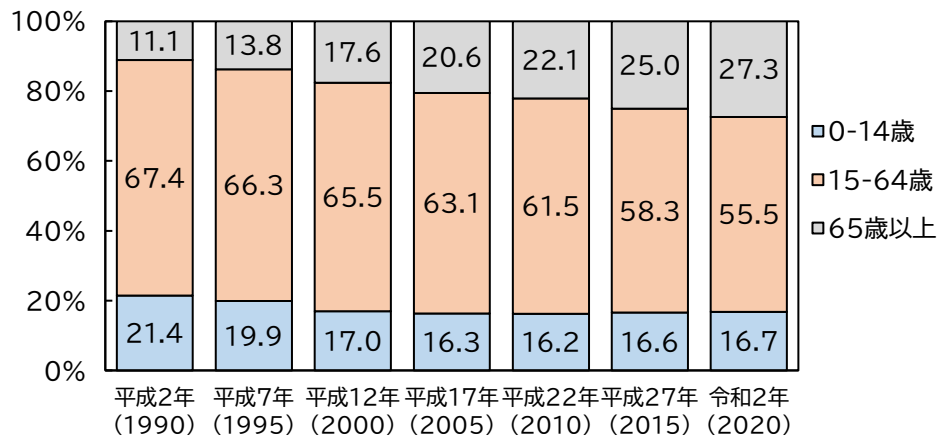
本町の人口は、平成2年(1990)以降をみると、7,086人から減少傾向で推移しており、令和2年(2020)で6,034人となっています。年齢3区分別では少子・高齢化が進行していることがうかがえます。

#### ■年齢3区分別人口の推移



資料:令和2年(2020) 国勢調査  
※合計は年齢不詳を含んでいます。

#### ■年齢3区分別人口比率の推移



資料:令和2年(2020) 国勢調査

## ② 世帯数の推移

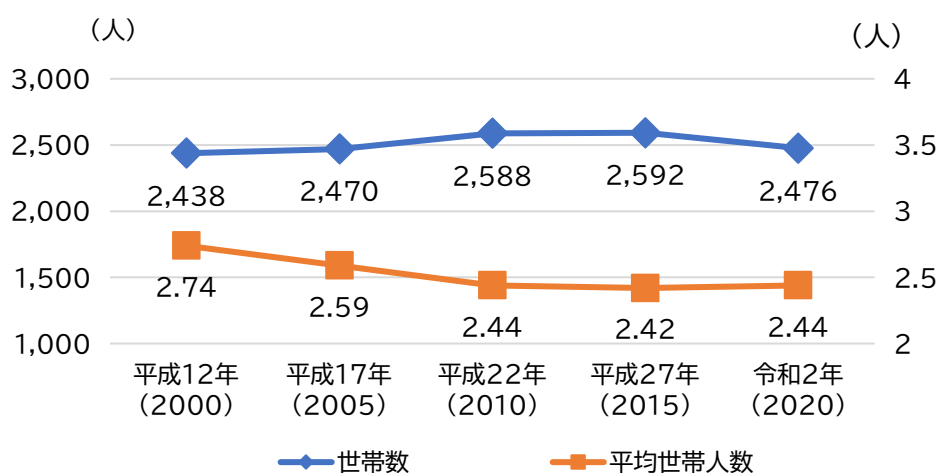
本町の世帯数は平成27年(2015)までは増加傾向にあったものの、令和2年(2020)では平成27年(2015)と比較して、約4.5%の減少となっています。一方、ひとり親家庭の世帯数は増加しており、令和2年(2020)と平成12年(2000)を比較すると、約31.8%の増加となっています。

平均世帯人数をみると、令和2年(2020)では2.44となり、平成12年(2000)と比較して、約10.9%の減少となっています。

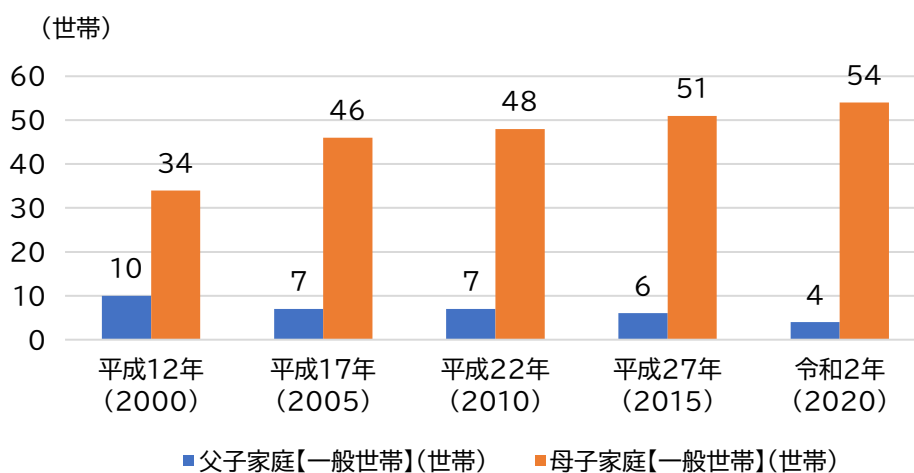
### ■世帯構造の推移

	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
世帯数(世帯)	2,438	2,470	2,588	2,592	2,476
平均世帯人員(人)	2.74	2.59	2.44	2.42	2.44
父子家庭【一般世帯】(世帯)	10	7	7	6	4
母子家庭【一般世帯】(世帯)	34	46	48	51	54

### ■世帯数と平均世帯人数の推移



### ■ひとり親家庭の世帯の推移

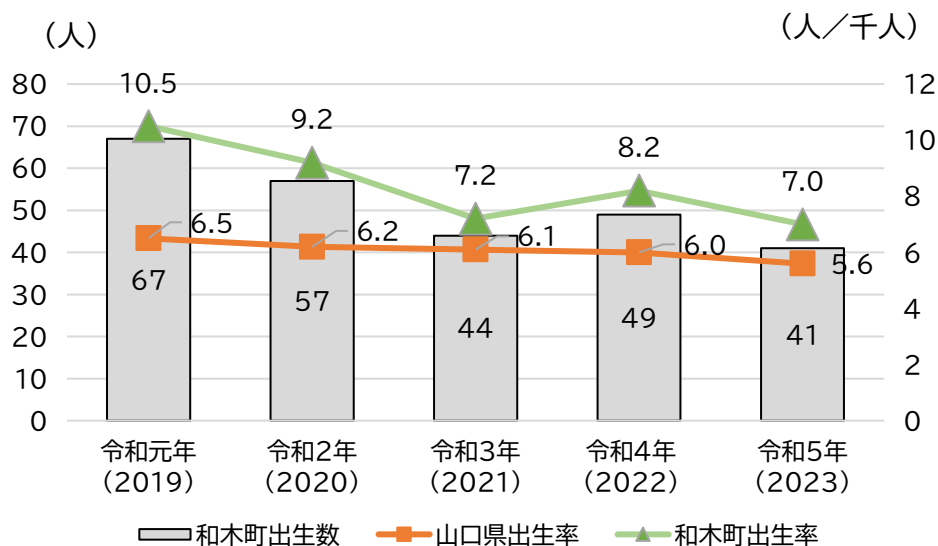


資料:第3期和木町子ども・子育て支援事業計画より

### ③ 出生数・出生率の推移

本町の出生率は、山口県の数値を上回ってはいるものの、この5年間で約3割の減少となっています。

#### ■出生数・出生率の推移

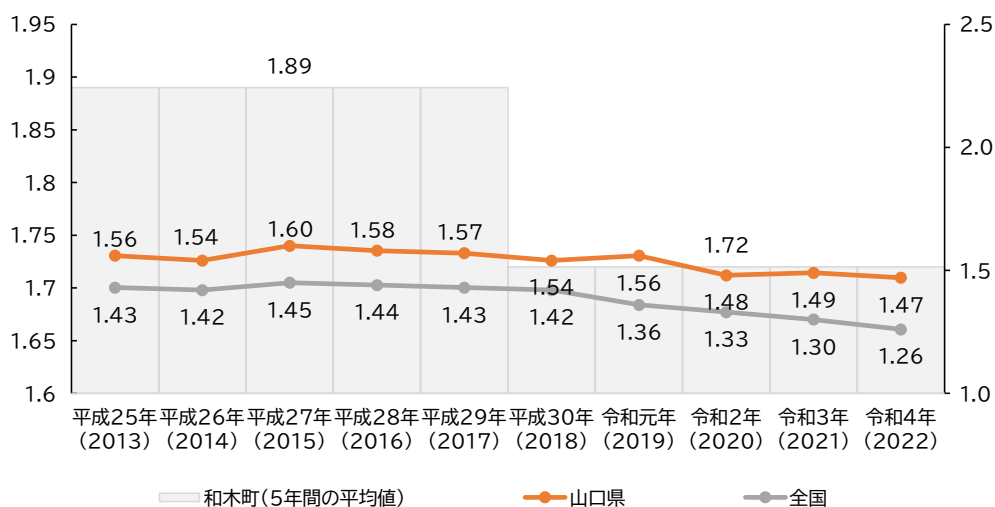


資料:厚生労働省 人口動態統計(確定数)の概況 第3-2表 人口動態総覧(率)

### ④ 合計特殊出生率の推移

本町の合計特殊出生率は、平成25年(2013)~同29年(2017)では 1.89、平成30年(2018)~令和4年(2022)では1.72と全国や山口県の当該比率を上回っていますが、人口を維持するために必要だと考えられている人口置換水準の2.07には至っていません。

#### ■合計特殊出生率の推移



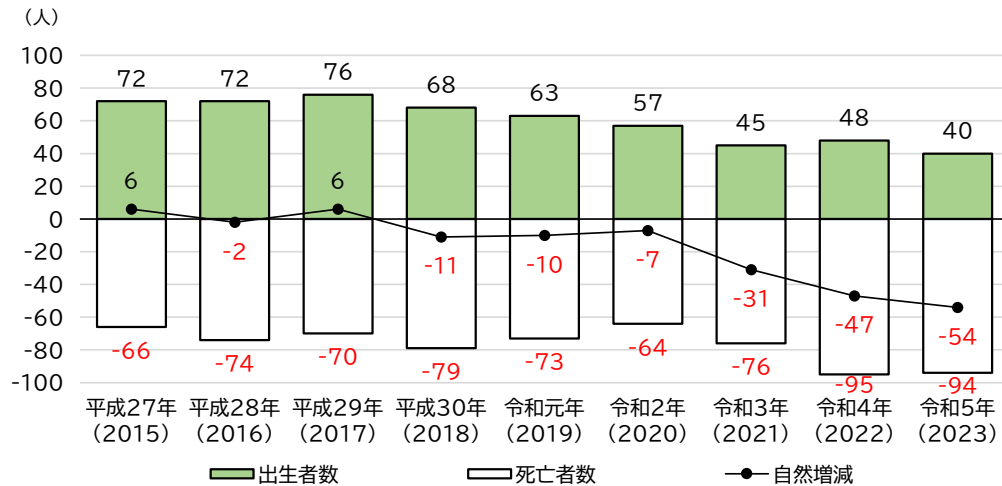
資料:人口動態統計(全国、山口県) 人口動態特殊報告(和木町)

## (2)自然動態の推移

### ① 自然増減の推移

本町の自然増減について見ると、平成27年(2015)から令和2年(2020)まではほぼ横ばいで推移していましたが、以後、出生数の減少と死亡者数の増加により、自然減の傾向が強くなっています。

#### ■自然増減の推移



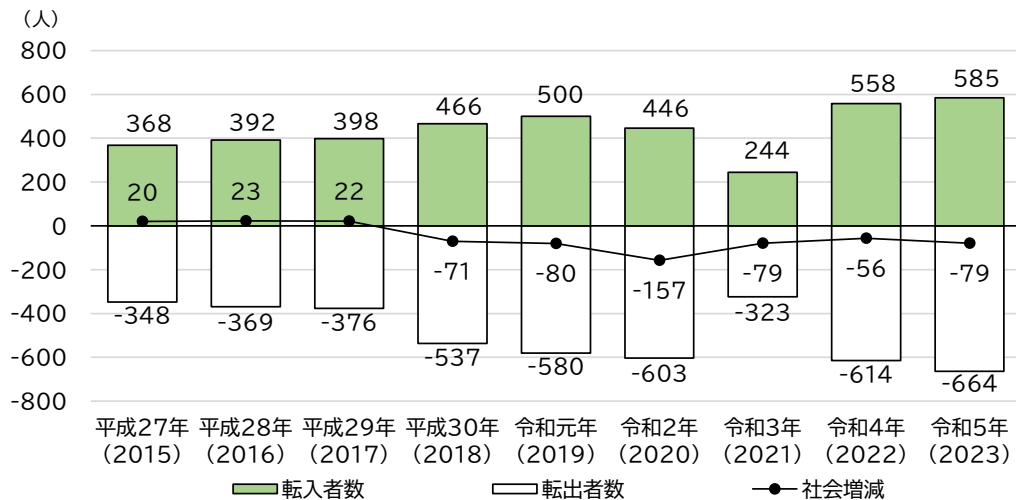
資料:山口県人口移動統計調査

## (3)社会動態の推移

### ① 社会動態の推移

本町の転入・転出の推移をみると、平成30年(2018)以降、転出者数は転入者数を上回り、転出超過が続いています。

#### ■社会動態の推移(転入・転出者数)

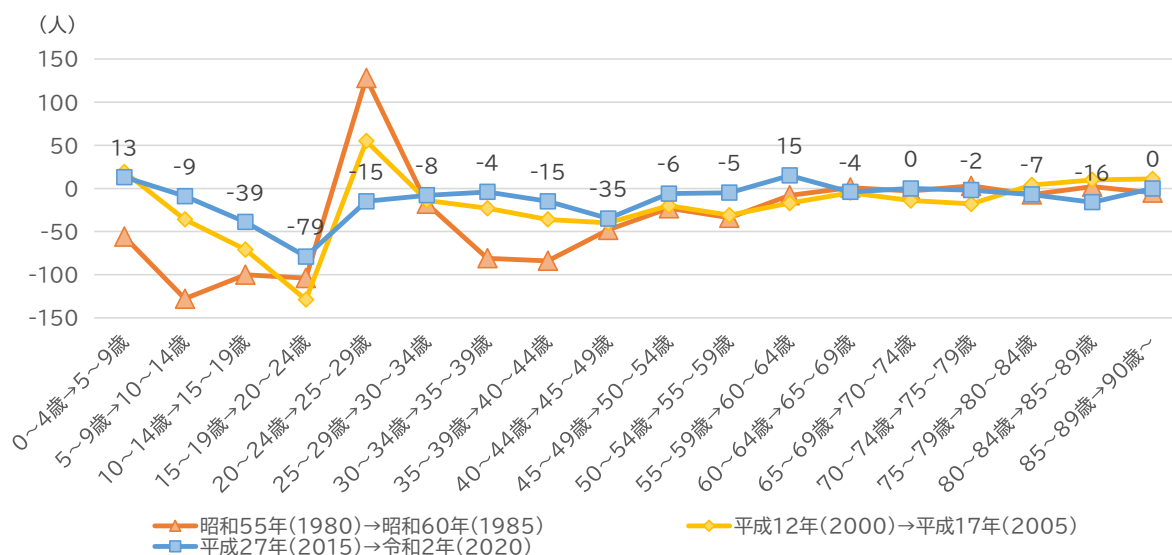


資料:山口県人口移動統計調査

## ② 年齢階級別の人口移動の状況

転入超過であった20歳代後半の世代が、平成27年(2015)から令和2年(2020)の5年間で転出超過に転じ、30歳代前半も含めた、いわゆる子育て世代が和木町に留まらない現状となっています。また、各世代の中では20歳代前半の転出超過が最も多くなっています。

### ■年齢区分別の純移動数

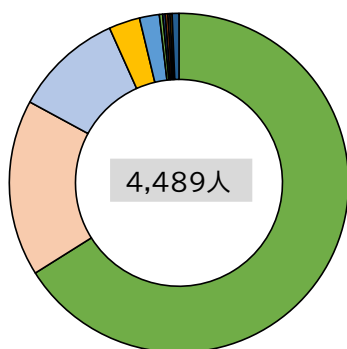


資料:令和2年(2020) 国勢調査

### ③ 昼夜間人口の状況

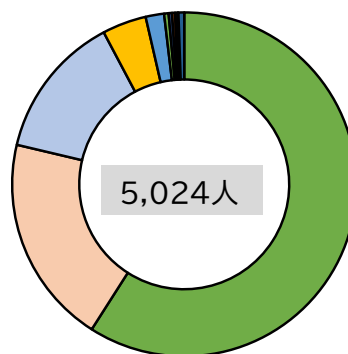
本町は、昼間人口に比べ、夜間人口の方が多くなっています。昼間人口と夜間人口の上位10項目の内訳をみると、特に和木町を中心としつつ、岩国市・大竹市との結びつきが強く、生活圏・就業圏が一体化したベッドタウン的性格を有していることが特徴となっています。

■昼間人口の内訳



■和木町 ■岩国市 ■大竹市 ■廿日市市 ■広島市 ■柳井市  
■光市 ■周南市 ■下松市 ■田布施町 ■その他

■夜間人口の内訳



■和木町 ■岩国市 ■大竹市 ■広島市  
■廿日市市 ■周防大島町 ■柳井市 ■周南市  
■府中町 ■光市 ■その他

単位:人

昼間人口の内訳 上位10項目		
第1位	和木町	2,966
第2位	岩国市	756
第3位	大竹市	466
第4位	廿日市市	133
第5位	広島市	85
第6位	柳井市	14
第7位	光市	11
第8位	周南市	11
第9位	下松市	9
第10位	田布施町	9
	その他	29

夜間人口の内訳 上位10項目		
第1位	和木町	2,966
第2位	岩国市	988
第3位	大竹市	681
第4位	広島市	208
第5位	廿日市市	87
第6位	周防大島町	21
第7位	柳井市	16
第8位	周南市	14
第9位	府中町	12
第10位	光市	4
	その他	27

資料:令和2年(2022) 国勢調査

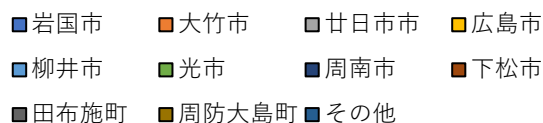
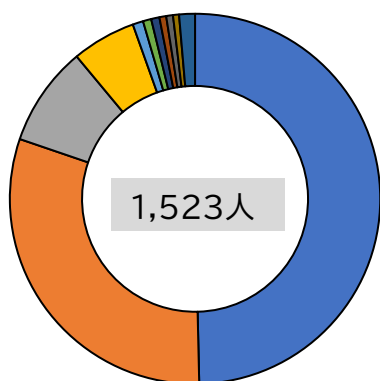
#### ④ 流入者数・流出者数の状況

令和2年(2020)における昼間人口ベースで見ると、域内への流入者数は1,523人、域外への流出者数は2,058人であり、流出超過(▲535人)となっています。

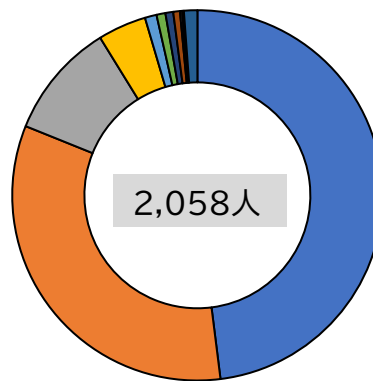
流入者の主な居住地は岩国市(49.6%)および大竹市(30.6%)で、近隣自治体からの通勤による流入が中心となっています。

一方、流出者についても岩国市(48.0%)、大竹市(33.1%)が大半を占めています。

■流入者数の内訳



■流出者数の内訳



単位:人

流入者数の内訳 上位10項目		
第1位	岩国市	756
第2位	大竹市	466
第3位	廿日市市	133
第4位	広島市	85
第5位	柳井市	14
第6位	光市	11
第7位	周南市	11
第8位	下松市	9
第9位	田布施町	9
第10位	周防大島町	8
	その他	21

流出者数の内訳 上位10項目		
第1位	岩国市	988
第2位	大竹市	681
第3位	広島市	208
第4位	廿日市市	87
第5位	周防大島町	21
第6位	柳井市	16
第7位	周南市	14
第8位	府中町	12
第9位	光市	4
第10位	東広島市	3
	その他	24

資料:令和2年(2020) 国勢調査

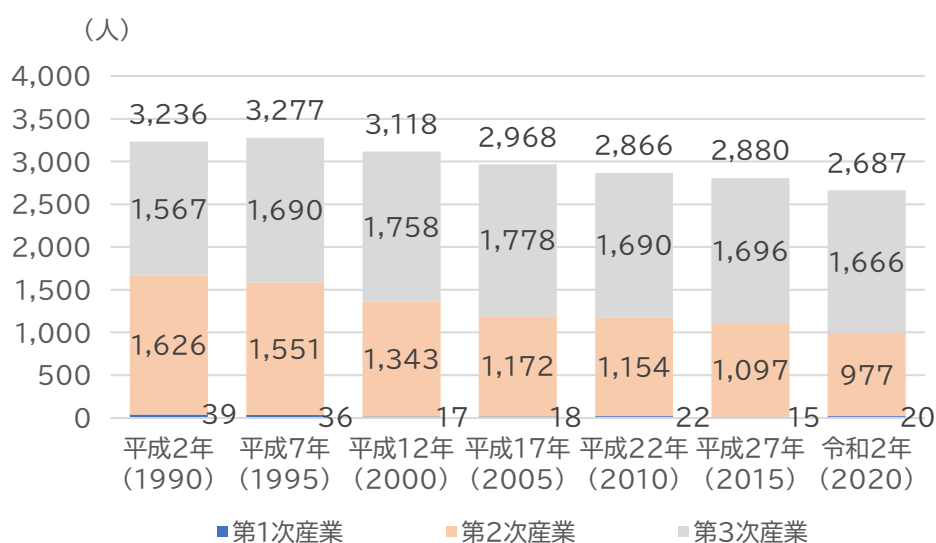
## (4)産業の状況

### ① 産業別就業者割合

就業人口は、第1次産業はほとんどなく、第2次産業の占める割合よりも第3次産業の占める割合が高くなっています。

就業者の多くは和木町外に勤務しており、町外への通勤に依存した就業構造となっていることがうかがえます。一方で、町内に居住し町内で働く層も一定数存在しています。

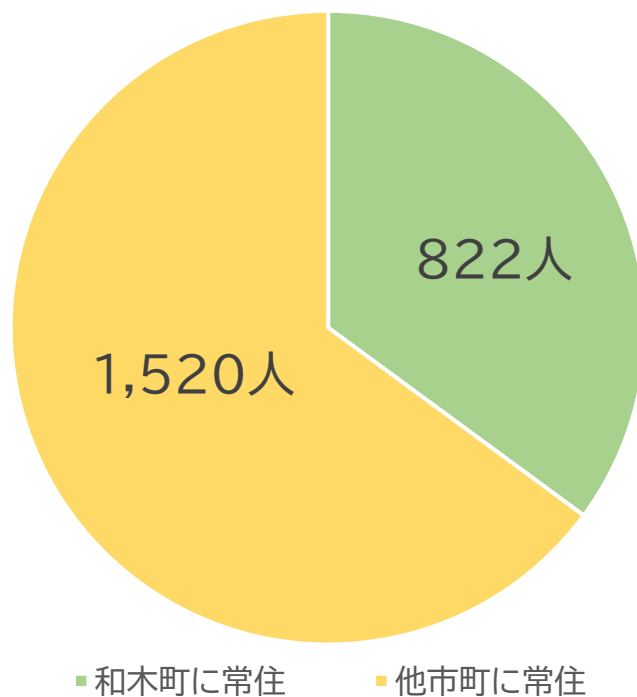
#### ■産業別就業者割合



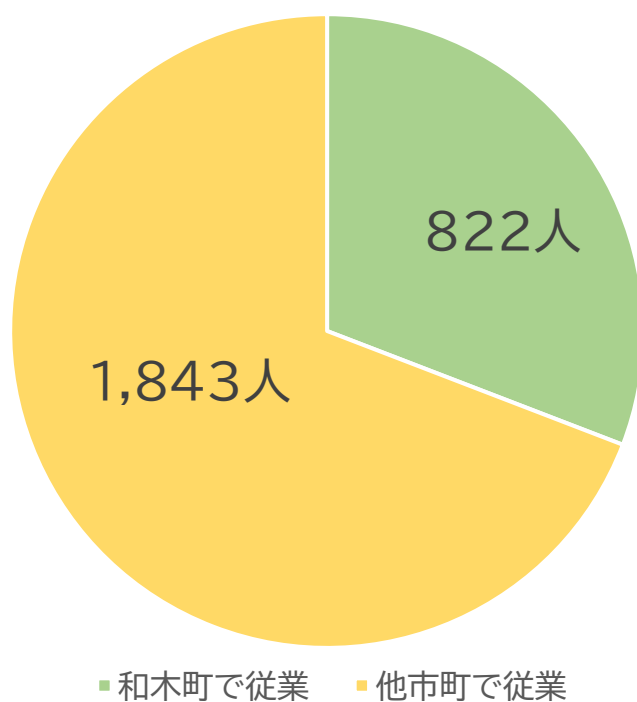
資料:令和2年(2020) 国勢調査

※分類不能を除くため、内訳と合計は一致しない

■就業者の居住地と勤務地の内訳



※常住地不明を除く



※従業地不明を除く

資料:令和2年(2020) 国勢調査

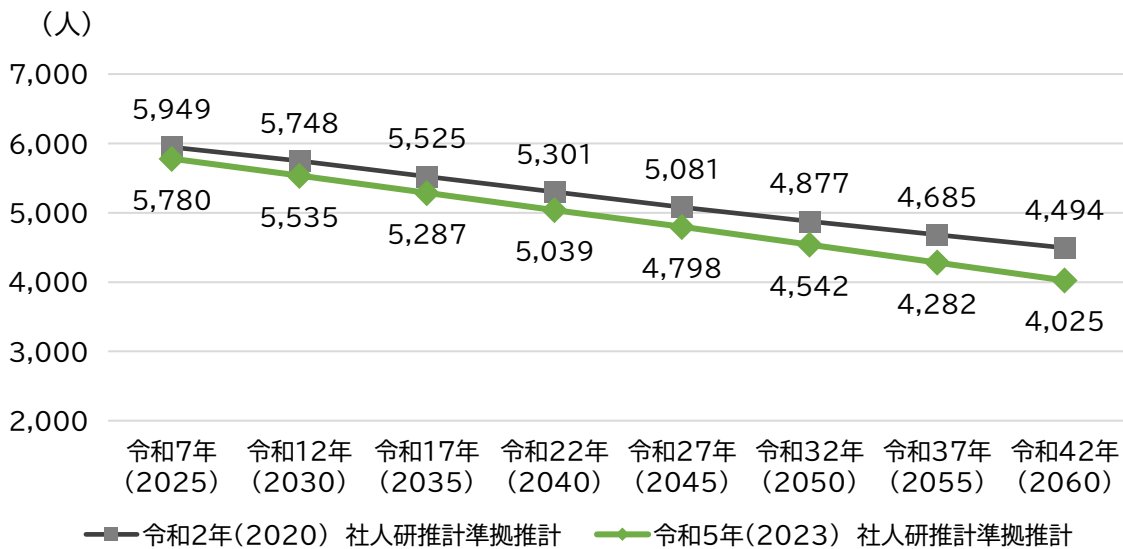
# 第2章 将来人口推計と分析

## 1 将来人口推計

### (1) 社人研推計の比較

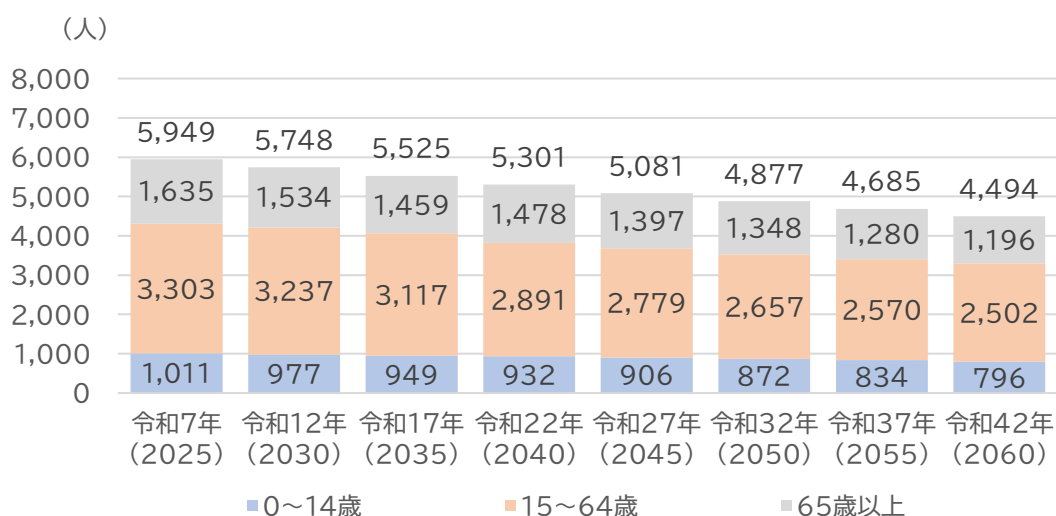
国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)が公表する「日本の地域別将来人口推計(令和5年(2023)推計)」と令和2年(2020)時点の推計を比較すると、最新の推計では、より人口減少が進んでいく見込みとなっています。

■令和2年(2020)と令和5年(2023) 社人研推計の比較

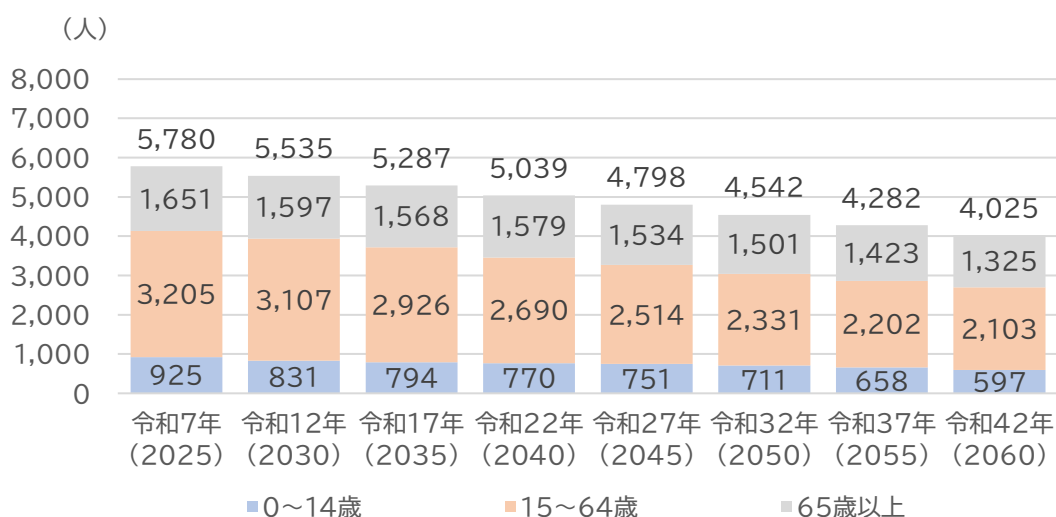


資料:社人研「日本の地域別将来推計人口」

■令和2年(2020) 社人研推計 年齢3区分別人口



■令和5年(2023) 社人研推計 年齢3区分別人口



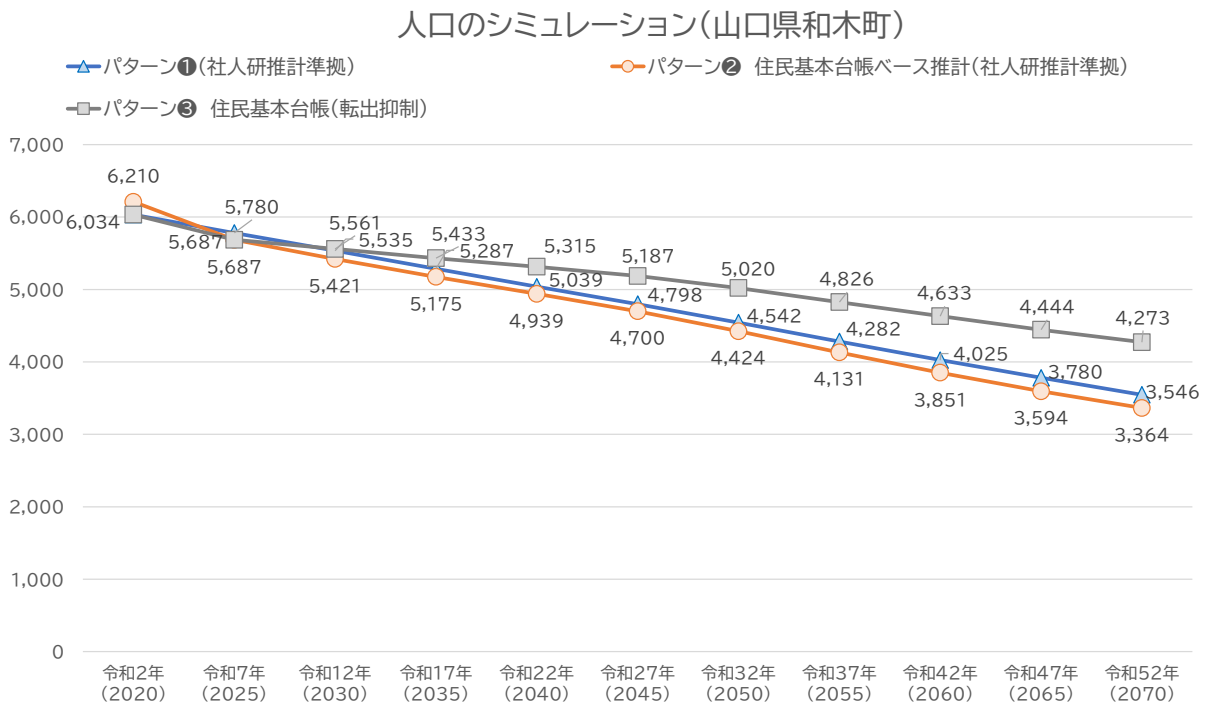
## (2)和木町の将来人口の推計と分析

### 1 シミュレーション結果

各シミュレーションにおける人口推計の設計及び結果は以下の通りです。

推計パターン	推計方法
パターン① 社人研推計準拠	社人研推計準拠が公表する推計によるもの
パターン② 住民基本台帳推計 (社人研推計準拠)	社人研推計の係数を住民基本台帳人口に適用したもの。 移動率・出生率はパターン①と同様。
パターン③ 住民基本台帳推計 (転出抑制)	パターン②に人口移動は15～24歳の転出15.0%抑制、 25歳以上の転出を80.0%抑制するものと仮定。

パターン①とパターン③を比べると、令和52年(2070)では転出を抑えることにより、約700人の人口減少を抑えたこととなります。



# 第3章 人口の将来展望

## 1 現状分析からの把握

---

### (1) これまでの人口の推移

- 総人口は、平成2年(1990)からおよそ1,000人減少し、令和2年(2020)現在で6,034人となっています。
- 65歳以上の高齢者割合は27.3%(令和2年(2020)現在)となっています。

### (2) 人口変化の要因

- 死亡数が出生数を大きく上回り、自然減が続いています。令和6年(2024)は死亡数が出生数を33人上回っています。
- 多くの年で転出者数が転入者数を上回っており、社会減の傾向となっています。
- 転入超過であった20歳代後半の世代が、平成27年(2015)から令和2年(2020)の5年間は転出超過に転じ、30歳代前半も含めた、いわゆる子育て世代が和木町に留まらない現状となっています。また、各世代の中では20歳代前半の転出超過が最も多くなっています。
- 令和2年(2020)における昼間人口ベースでみると、域内への流入者数は1,523人、域外への流出者数は2,058人であり、流出超過(▲535人)となっています。

### (3) 産業と雇用等の状況

- 就業人口は、第1次産業はほとんどなく、第2次産業の占める割合よりも第3次産業の占める割合が高くなっています。
- 就業者の多くは和木町外に勤務地を持っており、町外への通勤に依存した就業構造となっていることがうかがえます。一方で、町内に居住し町内で働く層も一定数存在しており、地元雇用の基盤は維持されていることも示唆されます。

### (4) 将来人口推計(社人研)

- 将来人口推計によると、令和7年(2025)の5,780人からゆるやかに人口が減少し、令和42年(2060)には4,025人(1,755人減)になると見込まれます。
- 令和7年(2025)以降、高齢者人口の減少が進み、更なる人口減少の段階に移行すると考えられます。

## 2 めざすべき将来の方向

---

### (1)人口目標達成のためのめざすべき将来像

#### ① 安心して子どもを産み・希望をもって育てるための支援

- 子育て世代の転入を促進し、安心して出産・子育てのできる環境づくりを推進します。
- 子育て世代に対する雇用の場の確保により経済的な安定を図ります。
- 本町の特徴である子育て支援や教育の一層の充実、地域全体で子育てを支える仕組みづくり等に取り組みます。

#### ② 地域に根差した産業、多様な雇用の創出

- 観光産業やサービス業、コミュニティビジネスなど、多様な雇用機会を創出し、就労希望者のニーズとのマッチングを高め、本町への就労者の増加を図ります。
- 既存産業だけではなく、次世代・未来につながる新たな産業の創出を支援し、地域経済の持続的な成長と発展につなげていきます。
- 人工知能(AI)、DXや第5世代移動通信システム(5G)といった未来技術を地域社会に実装し、産業の更なる振興と多様化を推進します。

#### ③ 安心して住み続けられる良好な生活環境の確保

- 町民が安心して住み続けられるよう定住促進に取り組みます。
- 本町の住み良さをPRし、移住・定住促進につなげていきます。
- いくつになっても健康でいられるための元気づくりや地域コミュニティづくりを推進します。
- 道路、上下水道といった生活インフラや居住環境の整備、災害対策や防犯への取組等を強化します。

### 3 人口の将来展望

#### (1)本町の人口の将来展望

転入増加・転出抑制により、「4,700人」を人口目標として設定します。

現行計画では、令和42年(2060)に5,700人を人口目標として設定し、人口減少対策を進めてきました。しかしながら、社人研推計準拠推計では、令和42年(2060)の総人口が4,025人と推計されており、予想よりも人口減少が進んでいく見込みとなっています。

本町の人口動態、特に出生数の低下、転出超過などが人口の減少の要因となっています。

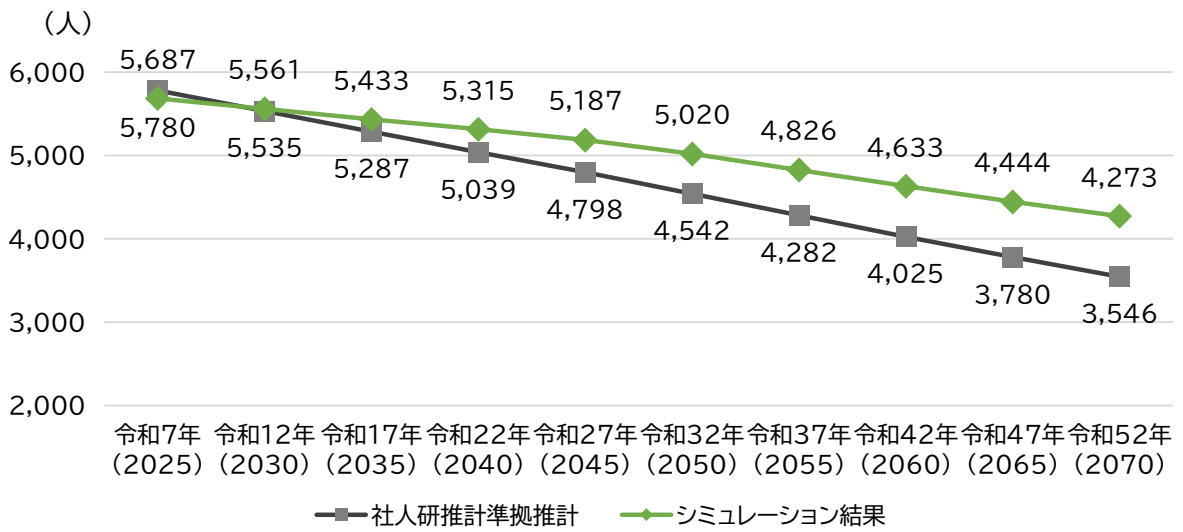
これらの現状を踏まえ、本計画では、再度シミュレーションを行い、より現状に即した人口目標を設定しました。

シミュレーションでは若者の転出を抑制し、人口の減少率を抑えたものとしています。シミュレーションの結果より、本町の人口目標を令和42年(2060)に4,700人に再設定します。

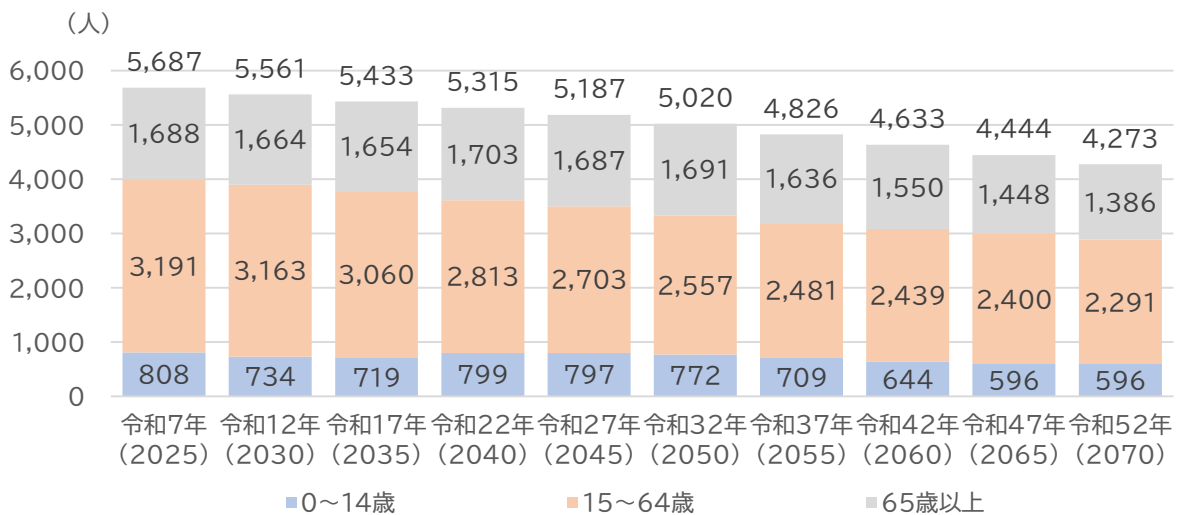
#### ■現行計画との比較

	前期計画	本計画 (下記シミュレーション参照)
目標人口	令和42年(2060) <b>5,700人</b>	令和42年(2060) <b>4,700人</b>
合計特殊出生率の設定	合計特殊出生率は、令和7年(2025)に2.00、令和17年(2035)に2.07で推移するものと仮定。	合計特殊出生率は、社人研と同率で推移するものと仮定。
人口移動の設定	人口移動はゼロ(転入者数=転出者数)と仮定。	人口移動は15～24歳の転出を15.0%抑制、25歳以上の転出を80.0%抑制するものと仮定。

## ■社人研推計とシミュレーション 比較



## ■年齢3区分別人口 将来推計



---

# 和木町人口ビジョン 改訂版

令和8年(2026)3月

和木町 企画総務課

〒740-8501

山口県玖珂郡和木町和木1丁目1番1号